

ナッジ理論の活用で行動変容を促進 医療現場での効果的な導入方法とは

英語で「軽くつつく、そっと押す」を指す「ナッジ」理論が近年注目を浴びている。デザインを活用したり、文章に少し手を加えたりするだけで人々の行動を変えられるという理論で、整列を促す足型ステッカーを床に貼っているのも身近な例の1つだ。こうしたナッジ理論の活用は、医療現場に於いてもミス防止や業務効率化、及び職場のゆとり確保に寄与したという事例が有る。着実な効果が得られる為には実際どの様に導入すれば良いのか。医療現場でのナッジの活用に取り組んでいる慶應義塾大学看護医療学部・大学院健康マネジメント研究科准教授の小池智子氏に、具体的な導入例や効果等について講演して頂いた。



慶應義塾大学看護医療学部・大学院健康マネジメント研究科准教授 小池 智子氏

挨拶



三ッ林 裕巳氏「日本の医療の未来を考える会」国会議員団代表（元内閣府副大臣、医師）

先日の総選挙で再び咲き実を果し、当会の代表を再び務める事になりました。改めて日本の医療、介護、社会保障制度が国民に受け入れられ、応援して頂ける形に変えていく必要が有ると感じています。今国会でも OTC 類似薬の保険適用除外や、出産に際する保険適用に関して議論されます。医療現場の理解を得られる十分な議論が必要だと思います。



古川 元久氏「日本の医療の未来を考える会」国会議員団メンバー（衆議院議員、国民民主党代表代行兼国会対策委員長）

今、食料品の消費税率をゼロにすべきかとの議論がされていますが、同様に医療に掛かる消費税についても、**詳しくはホームページをご覧ください** 年1000万円以上の医療機関への支援が盛り込まれましたが、病院等が直面している問題は解消されていないのが実状です。課題解決に向け、会の活動を通じ党派を超えて協力していきます。

続きを読むには購読が必要です

